

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	加美東小学校
学校長名	奥 雅裕

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・加美東小学校では、第6学年 65名

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、3教科とも全国平均、大阪市平均を下回っている。国語では、全国平均と6.6ポイント、大阪市平均と5.0ポイントの開きが見られる。算数では、全国平均と4.2ポイント、大阪市平均と3.0ポイントの開きが見られる。4年ぶりの実施となった理科では、全国平均と4.3ポイント、大阪市平均と1.0ポイントの開きが見られる。

平均無回答率については、3教科ともほぼ全国平均、大阪市平均より少なく、最後まであきらめずに取り組んだ児童が多かったことを示している。

学校全体として、授業では意欲的に取り組む児童が多く落ち着いた学習環境となっているが、今後も既習内容をしっかりと定着させ、様々な場面で活用していく力を育成していきたい。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

#### 〔国語〕

課題として挙げられるのは、特に「書くこと」の領域であり、他の領域と比べて全国平均、大阪市平均との差が大きい。今年度、本校の研究テーマとして掲げ重点を置いて実践している「表現する力」を向上させていくためにも、授業の導入や展開を工夫し適切な課題に向き合っていく活動を取り入れ、表現することの素晴らしさを実感できるようにする必要がある。そして、自分の考えの理由を明確にし、自分の言葉でまとめて書くことができるような学びの場面を多く設定していくことが重要である。

#### 〔算数〕

示された場面を正確に理解し、目的に合った数の処理の仕方を考察したり、理由を説明したりする問題における正答率が、全国平均・大阪市平均を上回る結果となった。一方、「データの活用」の領域では課題が見られる。分類整理された表やグラフの必要な部分を読み取り、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する力が向上するよう、指導の充実を図っていく必要がある。

#### 〔理科〕

「粒子・生命・地球」を柱とする領域については、全国平均、大阪市平均との差はあまり見られないが、「エネルギー」を柱とする領域においては差が大きくなっている。光の性質や反射の仕組みについての正答率が低かったことが課題である。また、実験で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えを記述することにも課題がある。

### 質問紙調査より

キャリア教育の推進に取り組んできた成果もあり、「将来の夢や目標を持っていますか」については、「当てはまる」という最も肯定的な回答が81.8%と高い結果で、全国平均の60.4%、大阪市平均の59.9%を大きく上回った。さらに「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」については、「当てはまる」という最も肯定的な回答が86.4%となり、こちらも全国平均の75.1%、大阪市平均の74.1%を大きく上回る結果であった。また「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についても、肯定的な回答が全国平均、大阪市平均よりも高い結果を示している。

学びに向かう適切な学習環境を整えるために実践してきた授業改革と、互いを認め合う良質な仲間づくりに力を入れて取り組んできた結果が、学校全体としての落ち着きと子どもたち一人一人の心の安定に表れている。

## 今後の取組(アクションプラン)

本校における課題及び学習指導要領の趣旨を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」を推進していくため、研究主題を「知的好奇心を高める授業の探求～自分の考えを表現できる子を目指して～」と設定し、全教科において様々な表現活動に取り組んでいる。また、コロナ禍においても感染状況を踏まえ、安全対策を徹底しながら本物に触れるための校外学習体験、トップアスリートや芸術家を招いての出前授業にも取り組んできた。また、日々の授業においては、いかに「深い学び」につなげていくかを大切に、わくわくする授業づくりにも取り組んでいる。今後は、困難な課題に対しても主体的に取り組んでいこうとする未来志向をもった児童の育成を目指し、家庭とも連携しながらICTを効果的に活用する学習にも取り組んでいく。